

きんしゃいきゃんぱす

【主催】九州大学の大学院生・大学生有志

【期日】平日の放課後、2時間程度

【場所】福岡市東区箱崎1丁目32-31 箱崎商店街きんしゃい通り内

【対象】地元の小学生を中心とした子どもたち

【ねらい】

【A】子どもの「やってみたい」という気持ちを大切に：
こちらがプログラムを用意するのではなく、あくまで子ども主体で遊び場を実践することで、子どもの中から、大人の枠にとらわれない、自由で魅力的な遊びが生まれてきます。【B】まちなかで子どもたちが遊ぶくまを遊ぶ>：子どもたちが商店街(まち)のなかで遊ぶことで、子どもたちはさまざまな大人と出会い、関わりをもつことができます。そんな大人たちと関わりながら、まちで遊ぶだけでなく、まちを遊ぶようになっていくのです。

【内容】・【成果】

- ①子どもたちの創造的な遊び：積み木や本でピタゴラススイッチをしてみたり、水溜りに泡や色を混ぜて思いつき遊んだり、「やってみたい」という思いをもとに、魅力的な遊びが日々創造されています。
- ②異学年交流：おもしろい遊びが起こっていると、子どもたちは自然に集まり、一緒に遊び出します。一緒に遊ぶ中で、子どもたち同士の関係性も徐々にできてきているようです。ある男の子が、「ここに来ると、誰かと遊べる！」と言っていました。ある中学生を慕う小学生たちもいます。このように、学校とは一味違う、異学年交流が生まれています。
- ③子どもたちの居場所：「学校やとしゃべらんけど、ここだとめっちゃしゃべるんやね」と驚かれた男の子がいました。その子にとって自分を素直に出すことができる場になっているようです。また、居場所感の高まりから、子どもたち考案のクラブも誕生し、きんきゃんの運営に関わる子どもも出てきました。
- ④遊び場の広がり：きんきゃんを拠点として、子どもたちは路上、商店街、公園、九州大学、さらにはまちへと遊び場を広げていきます。遊び場が広がることで、遊びの種類が増え、バラエティに富んできました。
- ⑤九大探検！（大学を遊ぼう）：大学だって、同じ箱崎のまち！九州大学を遊び場に、大学の専門性や広い敷地を生かしたイベントを開催しています。年1回開催し、毎年100名を越える参加者があり、大学と地域とを結びつけるきっかけともなっています。
- ⑥地域行事への参加：箱崎の伝統行事「人形飾り」をはじめ、夏祭りへの出店、地域の運動会、餅つき大会、凧揚げ大会などの地域行事を通して、子どもたちとともに「地域」を体験してきました。次第に地域との接点も増えてきています。
- ⑦地域の大人との関わり：商店街で子どもたちが遊んでいると、地域の大人が話しかけたり、遊びを教えてくださいました。毎日顔を合わす店主の方々は、子どもたちが自発的に取材に訪れたり、関係性も深まっています。
- ⑧コミュニティスペースとして：きんきゃんが地域に根付いてくると、保護者の方がきんきゃん前で立ち話をしたり、地域の方が立ち寄って子どもたちの様子を見守ったりと、次第にコミュニティスペースとしての様相を見せてきました。

きんしゃいきゃんぱす全体像



泡色水溜りの作成！



商店街のおばあちゃんに取材



【課題】

きんしゃいきゃんぱすが地域に根付いてはきているものの、これからこの場をどのように持続可能な場にしていくかが大きな課題です。また、現在は助成金でまかなってはいるものの、家賃等の捻出も課題となっています。

【問い合わせ先】

きんしゃいきゃんぱす代表 山下智也(九州大学大学院人間環境学府)
090-8992-9449 tomonari_sf@jcom.home.ne.jp